

東北高等学校硬式野球部”育つての親”

松尾勝栄先生（まつおしょうえい）

誕生：明治33年7月24日福島県郡山桑野村
ご逝去：昭和51年7月27日享年76歳神戸市明石

松尾先生は早稲田中から國學院大學を出ている。昭和6年現在の東都大學野球連盟結成に参画した。その後、青年校長として佐賀中・唐津中・下松中、そして、朝鮮に渡り釜山（プサシ）工業、戦後西宮高校長を最後に教職員生活を退き、母校國學院大學監督として野球部の再建に奔走しました。

東北高校には、昭和5年コーチとして招聘され、特訓4ヶ月で野球部創設26年目に甲子園初出場を成し遂げました。翌年、お約束通り退任されましたが、昭和29年監督として再就任され、大型チーム創り5ヶ年計画に着手しました。「正しい野球を厳しく指導」をモットーに、“投手は速球・打撃は強振・守備は実践”を三大原則に、洗練された東北高校硬式野球部第一次黄金時代を築きました。

昭和40年、國學院大學の後輩、竹田利秋氏をコーチとして招聘し、昭和43年松尾監督は野球部部长に専念、竹田新監督として7年振り7度目の甲子園出場を果たして第二次黄金時代に突入しました。

そして、松尾先生は、「心魂刀幅三寸切り込め」（剣道の極意）”守っても攻めろ”の意味等、多大なる功績を残し”甲子園での優勝”を後進に託して東北高校をご勇退なされました。

在任期間中甲子園出場 春：2回 夏：6回

胸像建立は、竹田監督の教え子OB達（昭和40年度卒以降）が發起人となり、一口2,000円以上の寄付を全OBの方々に募り、山内茂OB会会長自ら富山県高岡市の鑄鉄工場に伺い発注して完成しました。

除幕式は、東北高校硬式野球部創設80周年記念事業として、昭和39年10月10日、小松島校舎球場バックネット裏に設置しました。

平成元年11月12日、泉校舎完成に伴い、野球部専用新球場の移設と合せて胸像を移して現在に至ります。

東北高等学校硬式野球部創立120周年

校長 五十嵐征彦

～ 松尾勝栄先生 胸像 ～

